

## 1. 活動報告（事務局 記）

—10月22日（火）緊急招集して、稲の脱穀が10時～11時30分に終わりました。

参加者は吉富匡一郎・渡辺正雄・西村敏子・原田事務局の4名でした。

—10月23日（水）夕方に原田武夫さん方にて、吉富匡会員と原田武元会員で臼ひきを行いました。収穫量（もち米玄米）やく3俵（180kg）でした。植えつけ面積も減少し、害虫ウンカにも若干おそわれ、昨年度の4俵（240kg）とはいきませんでした。収穫祭（餅つき）が十分行える量でした。稲作に携わった全ての方々お疲れ様でした。

—11月3日（日）小雨の降る中12名の会員の参加でした。11月15日に来客があるやもしれないとの事で皆様頑張りました。参加の会員の方々お疲れ様でした。

①草刈（特に川土手側のセイタカアワダチソウの刈り取りを完了しました）

②湿地帯エコアップ（スゲクサの間引き・止水池のガマの穂駆除）と周囲の草刈り

③草原ゾーンの川内の雑草駆除と浚え（イノシシ被害による水オーバーフロー）

川がきれいになって、水がスムーズに流れるようになりました。

そのほか、宇部市環境部への来客見学対応について、今後の維持管理について活動日を増やし交代制にする等協議をしました。

—11月15日（金）東京都府中市環境政策課自然保護係の2名の方が、宇部市へ行政視察に来られ、里山ビオトープ二俣瀬にも宇部市環境政策課の2名の方と視察されました。

今井会長と原谷会員と休みに遊びに来られていた寺本会員の3名で、ビオトープを案内しながら生き物や維持管理などを説明しました。

—11月24日（日）「親子自然観察隊」"里山の暮らし"

①米の脱穀（千歯・足踏回転脱穀機）（ダイガラによる臼ひき・篩／唐ミイ選別）ハゼかけ稲から玄米までの作業をしました。

②大豆の脱穀・焙煎・石臼粉挽きで、きな粉づくり

※つくったきな粉を餅ダンゴにしてたくさん食べました。

③脱穀後の稲わらでしめ縄・わら縄づくり勉強をしました。

※焚き火用のまき割りもトライしました。椎の実やサツマイモも焚いて食しました。

充実した体験活動となりました。

参加者は会員指導者16名・観察隊親会員10名（会員兼3名）・観察隊11名他ジュニア・シニア会員3名、総勢37名の観察隊行事でした。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

### ◎見学者

- 1 2月14日（土）北九州市自然環境保全ネットワークの会

### ◎行 事

- 1 2月1日（日）維持活動（エコアップ、草刈作業）
- 1 2月13日（金）餅つき準備
- 1 2月14日（土）収穫祭（餅つき）、親子自然観察隊の解散式

## 3. 来訪者の声

今月はありません

## 4. 会員の声【 秋の休日のこと 】（寺本 明広 記）

「社会見学でミサゴを教えてくれた兄ちゃんだ」

思わぬ場所で小学生から声をかけてもらいました。職場では多くの小学生を相手するので自分自身には覚えがなく申し訳ないのですが、向こうは覚えてくれている様子で、こんな場面に出くわすと、この職場で、山口で、仕事していて良かったとつくづく思います。

冒頭のエピソードは11月23日土曜日、アクトビレッジおのおで開催された宇部市生物多様性応援団のイベント中にあったことです。仕事上、週末に休日をもらえることがあまり多くありませんが、そんな中、休日になった貴重な土曜日、ありがたくこのイベントに参加しておりました。「ブラックバスを知ろう」というタイトルで、ブラックバスの生態の学習会、ブラックバスの調理見学、釣竿づくり、作った釣竿で実際に釣りと充実した内容で、勉強だけでなく、参加者の皆様と多く交流の機会を持って、大変有意義な休日を送ることができました。

イベントの参加者の中に親子自然観察隊に参加されている方がおられ、「明日はビオトープの行事ですね」と声をかけていただきました。うれしい反面、仕事で参加できないと伝えなければならないのは少し寂しく感じます。普段から野鳥を見にビオトープへ行くことがあり、ビオトープの活動日を忘れることもないのですが、実際活動には全然参加できていないことを申し訳なく思います。入会して初めのうちだけだったと思われたいよう、これからまた参加できれば、とは思いますが休日が不定期になるのでこればかりはどうしようもないのかもしれません。これからも不定期の参加になりますが、参加できた時には仕事で得たものを生かせるよう、日々努力していきたいと、そんなことを考えながら本日釣ったブルーギルの塩焼きをつつく休日の夜でした。

## 5. 親子自然観察隊 「里山の暮らし」 (管 哲郎 記)

お天気に恵まれ、昨年に引き続き「里山の暮らし」ということで、一昔前の稲作について勉強しました。現在のお米の脱穀処理はすべて機械であつという間に行えますが、機械が導入される前まではすべて手作業で脱穀処理がなされていました。幸いにもその当時の器具が二俣瀬地区に残されており使用可能でしたので、会員の皆さんの協力により今年もその器具を使用し、お米の脱穀処理を再現し、体験することができました。

お米の脱穀は、まず”千歯”と“足踏回転式脱穀機”という器具で乾燥させた稲穂よりお米をはずし粃にします。粃は”台唐”という器具で搗きます。搗かれたモミは”玄米”になりますが、一度には玄米にできませんので、何度も搗いて玄米に仕上げます。搗かれた玄米にはゴミやモミ殻がたくさん混じっています、このゴミや殻を”唐箕”という器具にかけ玄米と不純物を風の力でより分け玄米が取りだされます。

お米の脱穀のほか、大豆をさやからはずす作業を体験し、お米と大豆を石臼で挽き粉を作る作業も体験しました。さらに火をおこす方法を学び、炭火を”火吹き竹”によって強くする体験をしたり、焼き芋も作りました。米粉は水を加え練って小さなダンゴにし、わかした熱湯に入れダンゴモチを作り、大豆はお砂糖をまぶした”きな粉”にして、”きなこモチ”を作る作業も隊員で分担して行いました。

石臼で挽かれた”きなこ”は市販の”きなこ”よりコクがあつておいしく好評で、出来上がった”きなこモチ”はあつという間に皆さんのお腹の中へ消えてゆきました。一生懸命準備しお世話していただいた会員の方の中には、作業を優先されていた関係で十分に食べられなかった方もおられたようで、申し訳なかったかも？しかし、皆で作業し作った”きなこモチ”が残らず食べられ、会員の皆さんは内心喜ばれていました。

驚いたことに、重たい石臼は低学年の子供たちが受け持ち、最後まで米粉と大豆粉を仕上げてくれたことです。指導者の教えた通りに最後まで手抜きすることなく、きちんとやり遂げたことは立派でした。

また”きなこ”に挽く前に大豆をフライパンで煎ります、煎られた豆はとても香ばしくおいしいので、粉に挽かれる前に皆にかなり食べられてしまいました。また会員の方よりいただいた”シイの実”もフライパンで煎られましたが、初めて食べた方も多かったようで珍しいのかすぐになくなってしまいました。

最後に脱穀した後の稲ワラで、お正月用の”輪飾り”を皆で作りました。最初は大人でもうまく縄を縛えませんでした、最後には大人も子供たちもうまく縛えるようになり、自分の作った輪飾りを大喜びで各人おうちに持ち帰りました。

予定時刻を少しオーバーしましたが、皆充実した一日になったようで、”里山の暮らし”を十分に満喫して解散しました。



千歯の実施研修



足踏回転式脱穀機の実習



”ダイガラ”での粃摺り



”唐箕”での選別



大豆を粉に挽く低学年が担当



しめ縄づくりに挑戦！

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 (管 哲郎 記)

(11) マイコアカネ *Sympetrum kunckeli*

トンボ科 *Libellulidae* Stephens <アカネ属> *Sympetrum* Newman

宇部市や下関市、長門市など、県内は海に囲まれていますので、沿岸ぞいの森林に多く見られますが、やや局所的で見られない場所もあります。汽水域にも多いので、海水混じりの水を好むのかもしれませんが。

未熟の時は♂♀とも黄色っぽい色をしています。成熟するとオスの腹は真っ赤に染まり、いかにもアカトンボ！といったトンボに変身します。小さいわりには敏感、敏捷で、近寄るとすぐ逃げてしまいますので、撮影や、採集にはそっと近づかねばなりません。

羽化はやはり6月～7月に終わり、一旦、森の中に隠れたのち、成熟すると公園や山道の周りなどに現れます。額に小さな眉斑がある個体もあり、マユタテアカネと間違えそうですが、胸の模様が独特なのと、顔(額)が白と空色(ブルー)ですので、他のアカトンボとは区別が付きやすいと思います。また、♀の中にも腹の色が♂と同じ赤色をした個体が見つかりました。マユタテアカネでは多いのですが、マイコアカネは初めてでした。



顔(額)がブルーの♂



小さな眉斑と顔のブルーな♀



成熟した♀、胸の模様が特徴



♂と同じ腹の赤い♀

## 7. 会よりの連絡事項（事務局より）

### (1)、会報編集長より

会報の2014年正月号は記念すべき150号となります。記念冊子としての作成は無理かもしれませんが、全会員皆様の投稿をお願いすることになりますので、今から何か準備しておいてください。（投稿の締め切りは、2014年1月17日（金）の予定です）

会の活動日に、投稿の可否を確認していきますが、少ない場合には強制的に指名も考えますので、ぜひ協力して下さい。

### (2)、次回の活動日について

次回12月1日は二俣瀬の町づくりサークルの活動日と重なり二俣瀬の会員4名が抜けます。前田エコアップリーダーのもとに、エコアップのみの作業となります。水の中に入る準備で参加願います。

次々回収穫祭（餅つき）は12月14日ですが13日に9時より準備（米洗い・会場づくり等）を5～6名応援願います。参加可能な方はふれあいセンターに参集ください。

## 8. 編集後記

11月24日は親子自然観察隊の”里山の暮らし”に我が子（3歳女と4歳男）と参加しました。子ども達はビオトープ駐車場到着時に偶然居合わせた管さんに軽トラに乗せてもらい、ウキウキ♪ビオトープに到着したら、石臼によるもち米の粉ひきが…！上の子どもはいい食い付き様で、しばらくぐるぐると石臼をまわらせて頂きました。人見知りの下の子どもは最初は「抱っこ抱っこ～」とひつついて離れませんでした。きな粉のおだんごを頂くと「まだ食べるまだ食べる…」と。「あなた、いったいいくつ食べるの？」と良い反応♪ お団子をゆでるためのお鍋に運ぶのをお手伝いしながら、さてさて、今度は「だいがら」を重たいながら踏んでみて、そして「とうみ」へ…。「ぐるぐる回すの、た～のし～！」と、ひたすらまわしています。風もおきますし。おかげさまで、なんでも食わず嫌いの上の子供も、炒った大豆や椎の実も！頂いたもの全部食べました！こんなの初めてです！とてもうれしく、よい機会をくださり、ありがとうございました！

そしてしめ縄づくりに挑戦し、解散。すると、また軽トラに乗せてもらうことを目論む我が子達の姿が…（味をしめました…）。「今日楽しかったね！」と帰るニコニコ我が子。ありがとうございました。またどうぞよろしくお願ひ致します♪

（大野 靖子 記）